

# メセナ群馬

2023 春



湯本孝「凡河内躬恒 歌（春雨の降り初めしより青柳の糸の緑ぞ色まさりける）」

企業メセナ芸術文化奨励賞・功労賞授賞式 於：ホテルサンダーソン 2階会議室

3月 日（）臨時社員総会に引き続き、令和4年度の芸術文化奨励賞、並びに新設された芸術文化功労賞の授賞式が行われました。福田会長より、受賞者それぞれに賞状と賞金が贈られました。



上野瑞香氏



牛嶋直子氏



吉村浩美氏



松橋瑞穂氏



田中明子氏

受賞された方々につきましては、株式会社ヤマト本社ギャラリーにおいて、本年秋頃を目途に、展覧会等の記念の催しを計画しております。ご期待ください。



福田会長

岡野副理事長

また、先年度、福田会長より本法人に対して多額の寄付をいただいたことに対して、感謝状並びに島岡実画伯の絵画作品を岡野副理事長より贈呈いたしました。

牛嶋直子 1979-

牛嶋直子さんは前橋出身で、女子美術大学芸術学部ならびに同大学院で日本画を学び、前橋を拠点に制作発表を続けています。新人作家の登竜門ともされる国立新美術館でのシェル美術賞展や、上野の森美術館のVOCA展などにも出品し、アーツ前橋の開館記念展、群馬県立近代美術館の企画展などでも紹介された実績を持っています。近年では、日本画の領域を超えた立体作品の制作も行い、その活躍が期待されています。



牛嶋直子「醒めるために見る夢」

上野瑞香 1974-

富岡市に生まれた上野瑞香さんは、東京芸術大学美術学部ならびに同大学院で日本画を学び、富岡のアトリエ U.E を拠点に制作発表を続けています。富岡市立美術博物館や高崎市タワー美術館での展示をはじめとして、山種美術館日本画アワードや三越伊勢丹での千住博日本画大賞展への入選の実績を持っています。牛嶋さんとは対照的に、日本画の画材の魅力にこだわった制作姿勢を貫いており、今後も日本画の普及啓発に貢献することが期待されています。



上野瑞香「薊」

吉村浩美 1966-

吉村浩美さんは東京学芸大学で彫刻を学んだ後、東京芸術大学大学院で文化財保存学を専攻、日本の伝統的な彫刻技術である乾漆という技術を習得しました。以後、県内はもとより東京をはじめとした各地で作品発表を続けています。渋川市美術館のThe rising generation や富岡市立美術博物館の郷土の作家展などでも紹介され、大地の温もりを思わせる人物や植物、あるいはペンギンなどの素朴な造形が人々を魅了しています。



ギャラリー空華での展示

吉村浩美

松橋瑞穂

高崎市出身の松葉瑞穂さんは、3歳よりヴァイオリンを始め、東京音楽大学ならびに同大学院で学び、草津国際音楽アカデミーやドイツのカール・フレッシュアカデミーを受講して研鑽を深めています。ぐんま新人演奏会、次世代を担う音楽家たちのコンサート、富岡製糸場コンサートなど、数多くのコンサートに出演。群馬交響楽団のエキストラ奏者も務めています。



松橋瑞穂

以上4名の皆さまの、これまでの歩みと成果、そして今後のますますの活躍を期待して芸術文化奨励賞を贈ります。

また、今年度あらたに芸術文化功労賞を設け、洋画家の田中明子さんを選びました。

田中明子 1933-

東京に生まれた田中明子さんは、戦時中高崎に転居しました。現在の武蔵野美術大学の前身である武蔵野美術学校を卒業。高崎を拠点に長年制作活動を続けてきました。昭和44年にはぐんま女流美術協会の創立に参加し、後年その代表を務めるなど、本県の女流美術家の育成と発展に尽力しています。中央では、女流画家協会展や独立展などの歴史ある団体に所属し、長年にわたって身近な日常生活からモチーフを得た、色彩豊かで明快にして清潔な絵画世界を生み出してきました。卒寿を迎えた田中明子さんに、企業メセナぐんまは芸術文化功労賞を贈り、その芸術を紹介する展覧会の開催を応援したいと思います。



田中明子「未来に願う」2017年

## 手放しでは喜べない ―ロサンゼルス美術館に収蔵される伊勢崎銘仙

染谷 滋

併用拵という高度な技術で織られた伊勢崎銘仙が、アメリカのロサンゼルスカウンティ美術館（LACMA）に収蔵されるというニュースを耳にした。再現不可能とされた技術を復活させ 2016 年に新たに織られた 3 作品だが、これは当時も評判になり、ロンドンのビクトリア&アルバート博物館（V&A）が既に 1 点収蔵している。欧米のミュージアムが関心を示すのは、単なる日本文化への興味だけでなく、そこに優れたデザイン性と真似の出来ない高度な職人技術が生きているからだ。「絹の国」である群馬が誇るべきは、生糸を生産する製糸業だけではなく、桐生織や館林紬、そして足利銘仙と競った伊勢崎銘仙などの染織文化があったからだ。

この種のニュースを聞くと、海外のミュージアムに収蔵されるより以前に、なぜ県立博物館や美術館で収蔵されないのか悔しくて仕方がない。かつて館林美術館が設置されることになった際にも、二つ目の美術館よりも県立の染織博物館を建ててはどうかという意見が識者の間ではささやかれていた。私もこの考えに賛成だった。百歩譲って新しい施設が無理だとしても、既存の博物館や美術館で収蔵する

ことは何の問題もあるまい。実際、県立近代美術館には近現代の作家の着物や染織作品が収蔵されているのだから。

その現場から聞こえるのは、購入予算がない、工芸の専門家がない、収蔵スペースがない、といった言い訳ばかりだ。私に言わせれば、どれもこれも工夫で解決できることばかりだ。現に、今回も購入ではなく上毛新聞社が寄贈するのだという。地元の文化遺産を、地元の資本で海外の施設が収蔵する。国際交流や情報発信には十分な効果があるだろうが、伊勢崎市民や群馬県民はもっと悔しがらるべきだと思う。

日本人は昔から世界で認められることに価値基準を置いてきた民族だ。世界遺産になってから慌てて国宝に指定し、ノーベル賞を授賞すると無条件で文化勲章を授与する。今回の出来事も、これがきっかけで県内の諸施設が収蔵に動き出すのなら良しとすべきなのかも知れない。しかしそうならない間は、私の悔しさは続くことだろう。

（顧問、美術研究家）

### 追悼 蟻川七郎次理事長を偲んで

去る 2 月 20 日（月）、本法人の理事長・蟻川七郎次氏のご逝去されました。蟻川理事長は、長年にわたって企業メセナ群馬を支えるとともに、地域社会にさまざまな形で貢献されました。

生前、自分には七つの名前があると仰っていましたが、企業家としてはもちろん、幅広く文化活動に関わり、地域文化の振興に寄与されました。

著名なのは、蟻川玄秋の俳号で、俳人として「俳人協会」に所属し、俳句の普及発展に尽力されたことです。

2019 年には、群馬県総合表彰を受けられております。

本法人の会報「メセナ群馬」にも作品を寄稿していただきました。それを読むと、穏やかで快活

### 専務理事 野村品司

な人柄が思い出されます。

「俳人協会群馬県支部会報」の「やまどり」に、令和 4 年度の支部俳句大会の作品が掲載されておりました

葉桜や万葉集を愛読す  
朝夕に筍届く日和かな  
春風を聞く畑に立ち一呼吸

季節も春を過ぎ、初夏へと向かおうとしています。故人を偲びつつ、メセナ活動の一層の充実に努めてまいりたいと思っておりました。

ご冥福をお祈りいたします。



群馬県立近代美術館見学  
3月7日(火) 会長以下役員並びに事務局員で、県立近代美術館で開催されている「アートのための場所づくり」展を見学しました。企業メセナ群馬は、展覧会の図録10万円分を買い上げ、この企画に対する協力いたしました。

当日、展覧会を企画した田中学芸員に展示内容について解説をしていただきました。地域の美術活動を取り上げた展覧会はメセナ活動ともリンクし、興味深く鑑賞しました。



この展覧会では、賛助会員の河内世紀一さんの作品も展示されました。1977年、アートセンターギャラリーでの個展出品作品です。また、本法人顧問の染谷滋さんも、企画協力し、図録の文章を寄稿されています。

塩原友子回顧展 (株)ヤマト本社ギャラリー



2023年1月10日(火)～3月31日(金) 株式会社ヤマト本社1階ギャラリーホールにおいて、「塩原友子回顧展」が開催されました。初期作品、1960年代の前衛的実験的作品・未発表作品など多くの作品が展示されました。

## 大阪中之島美術館見学

酒井重良

3月下旬、京都国立近代美術館で開催中の「甲斐荘楠音の全貌」と「リュイユ フィンランドのテキスタイル」の二つの展覧会、それから大阪中之島美術館を見学したいと思い、なんとか時間をやりくりして出かけました。

甲斐荘とリュイユについては、別の機会に話させていただき、今回は大阪中之島美術館について書いてみたいと思います。

大阪中之島美術館は、昨年（2022年）2月に開館し、テレビ番組の日曜美術館や「ぶらぶら美術館」でも紹介されていました。とくに日曜美術館では、「大阪中之島美術館～蒐集もまた創作なり～」として、誕生までのエピソードを紹介していました。それによると、きっかけは100年前のある大阪商人のコレクションで、その方は戦時中も美術品収集に情熱を傾け、関西に美術館を作りたいと願っていたのだそうです。その夢は時代を超えて多くの人に受け継がれ、美術館創設へと結実してゆく、そのような物語だったと思います。

その番組を観て、大阪中之島美術館の組織や運営の方法はどのようになっているのだろうか、考えないではいられませんでした。群馬県の前橋という地方都市に住み、美術活動を進める中で、県立や市立の美術館のあり方に対して割り切れない思いを抱くようになっていたからでした。

地域に根差し、特性を生かしながらも、世界に向けて発信してゆく、そのような経営が理想的であるとして、実現は可能であるか、ということでした。

それは、行政レベルで経営が行き詰った施設を民間に委託、あるいは売却するというような話ではなく、真に民間の知恵と資本を生かして、市民生活を豊かにし、産業にも活力を与えるような美術館運営を考えるという意味合いなのです。

ただ、私は単に一般の来場者でしかありませんでしたので、開催中の「大阪の日本画」展を見学し、建物の内外を巡っただけで帰ってきました。それについては、また別の機会に述べたいと思っています。

帰ってから、美術館のホームページを開き、開館に至る沿革を見てみました。始まりは、1983年、大阪市制100周年記念事業基本構想の一つ「近代美術館の建設」と記述されていました。詳しくは、ホームページをご覧ください。

その後、さまざまな段階を経て、2019年2月建設工事が着手されたとあります。2019年4月、地方独立行

政法人大阪市博物館機構設立。同年6月、大阪中之島美術館の運営におけるPFI事業の実施方針の公表。特定事業の選定及び募集要項等の公表、と年譜に記載されています。

PFIとは、注によれば、Private Finance Initiativeの略で、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、効率的で質の高い公共サービスの提供を図るもの、ということだそうです。

また、PFI法とは、同じく注によれば、民間資金の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律、とのことでした。

そうして、美術館の運営事業については、事業者公募と審査を経て、株式会社朝日ビルディングが優先交渉権者となり、本事業の実施を目的とした「特別目的会社」（株式会社大阪中之島ミュージアム）を設立し、契約をしたことが書かれています。詳細は、美術館ホームページをご覧ください。

これらの経緯を経て、大阪中之島美術館は株式会社大阪中之島ミュージアムが運営し、館長及び学芸員は地方独立行政法人大阪博物館機構から出向し、専門学芸員と民間のノウハウを融合させ、今日的な美術館モデルを模索してゆくと書かれています。

専門的な内容については、文章に目を通しただけでは、理解が十分に届かないところもありますが、一口に美術館経営と言っても実に様々な方法があるのだということがわかりました。

芸術も社会的な活動の一環であることを考えると、自身の制作と合わせて、美術館の在り方、運営の方法についても関心を持ち、いろいろな立場の人たちと話し合っていく必要があると、改めて思いました。



リン・チャドウィックの彫刻と大阪中之島美術館



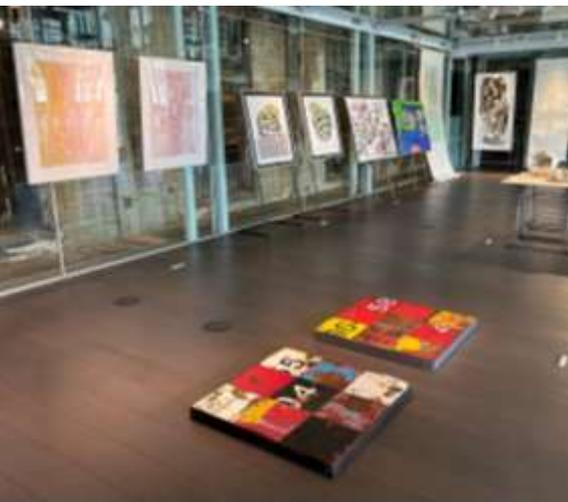
松村誠一展「迷宮のアルゴリズム」 令和4年8月1日(日)～14日(日) ↑

湯本孝展「詩と書—内包する繭のイメージ」 令和4年12月24日(土)

～令和5年1月22日(日) ↓



富岡 Exhibition TT 展+ 令和5年3月4日(土)～15日(水)



小倉進展「軌跡—心と糸のメタファー」 令和5年3月17日(金)～28日(日)





「糸にゆかりの古歌を訪ねて」令和5年4月14日(金)～23日(日)



### 「メセナ群馬 2023 春」

発行：令和5年4月25日(火)

編集：公益社団法人 企業メセナ群馬事務局

〒371-0805 群馬県前橋市南町4-47-6(株)

詩季画材内

TEL027-289-0614

#### 令和4年度 主催事業一覧

○富岡製糸場西置繭所多目的ホール使用

- ①「猫集合！ 一猫と養蚕信仰 富岡製糸場西置繭所」  
2022年4月15日(金)～24日(日)
- ②「世界遺産が結ぶ糸 一次世代の文化交流を目指して  
いずみなつみの読まない書 一現代書への挑戦」  
2022年5月2日(月)～15日(日)
- ③「富岡製糸場西置繭所における場と表現Ⅱ  
河内世紀一展 一シンボライズされた宇宙ー」  
2022年6月3日(金)～12日(日)
- ④「世界遺産が結ぶ糸 一次世代の文化交流を目指して  
ANIMA FORMA (魂のカタチ)  
MEGUMI MURAMATSU EXHIBITION (村松恵展)」  
2022年7月15日(金)～30日(土)
- ⑤「富岡製糸場西置繭所における場と表現Ⅲ  
松村誠一個展 一迷宮のアルゴリズム」  
2022年8月1日(日)～14日(日)
- ⑥「世界遺産が結ぶ糸 一次世代の文化交流を目指して  
湯本孝展 詩と書 一内包する繭のイメージ」  
2022年12月24日(土)～2023年1月22日(日)
- ⑦「世界遺産が結ぶ糸 一次世代の文化交流を目指して  
富岡 Exhibition TT 展+」  
2023年3月4日(土)～15日(水)
- ⑧「世界遺産が結ぶ糸 一次世代の文化交流を求めて  
小倉進展 軌跡 一心と糸のメタファー」  
2023年3月17日(金)～28日(日)

#### 令和4年度 後援事業一覧

- ①「第25回 Gunma ペン書道展」(主催：Gunma ペン書道会)  
2022年6月10日(金)～12日(日) ペイシア伊勢崎店4階 IS ホール
- ②「第69回連盟展」(主催：群馬美術家連盟)  
2022年6月22日(水)～27日(月) 昌賢学園まえばしホール大・小展示室
- ③「中村圭楽寛ぎコンサート VOL.1」(主催：圭楽友の会)  
2022年6月26日(日) 群馬県庁昭和庁舎1階ホール
- ④「第53回 ぐんま女流美術展」(主催：ぐんま女流美術協会)  
2022年8月19日(金)～24日(水) 高崎シティギャラリー第1展示室
- ⑤「第70回記念群馬県写真展覧会」(主催：群馬県写真文化協会 等)  
2022年9月23日(金)～27日(火) 群馬県庁県民ホール (1F・北側)
- ⑥「25th Sculptura スカルプトゥーラ ～扉～」(主催：スカルプトゥーラ)  
2022年10月21日(金)～26日(水) 高崎シティギャラリー第2展示室
- ⑦「MOA 美術館前橋児童作品展」(主催：MOA 美術館前橋児童作品展実行委員会)  
2022年11月3日(木)～6日(日) 前橋市中央公民館3階ホワイエ
- ⑧「群馬バロックオーケストラ Vol.6」(主催：群馬バロックオーケストラ演奏会実行委員会)  
2022年11月5日(土) 玉村町文化センター大ホール
- ⑨「第73回群馬県美術展覧会」(主催：群馬県美術会 等)  
2022年11月25日(金)～12月4日(日) 群馬県立近代美術館
- ⑩「第73回群馬県書道展覧会」(主催：一般社団法人群馬県書道協会 等)  
2022年12月11日(日)～21日(水) 群馬県立近代美術館
- ⑪「第57回前橋市民展覧会」(主催：前橋市民展覧会委員会)  
昌賢学園まえばしホール大・小展示室  
美術部門 2023年2月10日(金)～13日(月)  
書道部門 2023年2月22日(水)～25日(土)  
写真部門 2023年3月3日(金)～6日(月)